

構造工学論文集 最終原稿用チェックシート

下記の項目を確認して下さい。

チェックシートでチェックされているにも関わらず、様式が守られていない原稿は掲載が認められない場合があります。

(1) 原稿の書式

- 原稿は、A4 版で作成されている。
- 原稿の余白は、上 20mm, 下 25mm, 左 20mm, 右 20mm に指定されている。
- 本文は、2 段組となっている(25 字×50 行×2 段)。
- 原稿の余白部分に記載されている文字、図・表・写真等はない。
- 本文のフォントは、和文の場合には明朝体(算用数字は Times)、英文の場合には Times 体を使用している。
- 所定の行間の設定となっている。
(特に、英文原稿の場合に、所定の行間よりも詰まった状態で投稿されているケースが多い状況。)
- 文字化けの原因となる①, I, 崎などの環境依存文字は使用していない。
- 本文のフォントサイズは、10 ポイントである。
- 英文フォントは、Times を用いている。
- 使用する句読点について、和文の場合には全角の「,」,「.」とし、英文の場合には半角の“,”,“.”を用いている。
- 単位は SI 単位である。
- 原稿は、全部で 14 ページ以内である。
- 原稿中に大幅な余白がない。

(2) タイトル, 著者名, 所属先の書式

- タイトルページの 1 行目左端に、フォントサイズ 10pt で、(Vol.(半角スペース)66A として)
和文論文:「構造工学論文集 Vol. 66A (2020 年 3 月)」, 右端に「土木学会」と記載し、題目との間は 1 行空けている。
和文報告:「構造工学論文集 Vol. 66A (2020 年 3 月) 報告」, 右端に「土木学会」と記載し、題目との間は 1 行空けている。
和文総説:「構造工学論文集 Vol. 66A (2020 年 3 月) 総説」, 右端に「土木学会」と記載し、題目との間は 1 行空けている。
英文論文:「Journal of Structural Engineering Vol. 66A (March 2020)」, 右端に「JSCE」と記載し、題目との間は 2 行空けている。
英文報告:「Journal of Structural Engineering Vol. 66A (March 2020)」, 右端に「JSCE」と記載し、次の行の左端に「Technical report」と記載し、題目との間は 1 行空けている。
英文総説:「Journal of Structural Engineering Vol. 66A (March 2020)」, 右端に「JSCE」と記載し、次の行の左端に「Review article」と記載し、題目との間は 1 行空けている。
- 和文の場合には、題目(タイトル)のフォントサイズは 14 ポイント、フォントはゴシック体を用いている。また、1 行空けて英文タイトルを記述する。そのフォントサイズは 10 ポイント、フォントは Times 体とし、先頭の 1 文字および固有名詞の始めの文字のみ大文字としている。
- 英文の場合には、題目(タイトル)のフォントサイズは 14 ポイント、フォントは Times 体を用いている。
- タイトル(和文および英文)は中央揃えである。
- 連絡著者には+を付している。また、1 ページ目左下に原稿体裁に従って E メールアドレスを記載している(連絡著者 / Corresponding author の表記はそのままとし、著者名には置き換えず、その下に E メールアドレスのみ記載する)。
- 姓と名の間に空欄が無い(和文の場合には、名字と名前の間にスペースは入りません)。
- 著者名のフォントサイズは 10 ポイント、フォントは明朝体あるいは Times 体を用いている。
- 著者名の位置は、英文タイトルから 1 行空けて中央揃えとなっている。
- 著者の所属は著者名から 1 行空けて中央揃えとなっている。

(3) 英文アブストラクト

- 著者所属から 1 行空け、1 段組(左右両端を 25mm 空ける)で記載されている。
- 長さは、10 行以内もしくは 120 words 以内である。
- フォントサイズは 10 ポイント、フォントは Times を用いている。

(4) キーワード

- 1 段組とし、その位置は英文アブストラクトの次の行(1 行空けない)となっている。
- フォントサイズは 10 ポイント、英字フォントは Times-italic、和文フォントは明朝体(斜体)を用いている。
- 数は 3, 4 個であり、複数行となる場合はキーワードの本体部分の先頭が揃うように、インデントを行っている。
(キーワード部分も、左右両端を 25mm 空ける)

(5) 本文の書式

- キーワードから 2 行空けてから、章を書き始めている。
- 見出しのレベルは、章、節、項までの 3 段階となっている。
- 章、節、項の見出しは、フォントサイズ 10 ポイント、フォントはゴシック体(和文の場合)もしくは Times-Bold 体(英文の場合)を用いている。
- 章の見出しは、その上下について 1 行空けている。
- 節の見出しは、その上のみ 1 行空けている。
- ページや段が切り替わる部分は、見出しが最下部にはなく、最上部にある。

(6) 式・記号

- 式は、中央揃えとなっている。
- 式番号は(1), (2), (3)・・・とし、右揃えにしている。
- 式中の記号は、本文と同じフォントを用いている。
- フォントサイズは本文と同じく 10 ポイントとしている。

(7) 図・表・写真

- 呼称は、和文(図-1, 表-1, 写真-1), あるいは英文(Fig. 1, Table 1, Photo 1)とし、章ごとに分けずに通し番号となっている。
- 図・表・写真は、ページの途中に配置されておらず、文章の間に位置していない。
- 図・表・写真には、簡潔なキャプションを付し、和文もしくは英文に統一されている。
- キャプションの位置は、図、写真はその下に、表はその上に配置している。
- 図・表・写真のキャプション、番号のフォントサイズは 10 ポイントとし、和文フォントは明朝体、英文フォントは Times を用いている。
- 図・表・写真は本文の引用箇所に近い所に配置されている。
- 図・表・写真の番号・タイトルを含む領域の上下を、本文から 1 行以上空けている。

(8) 謝辞・付録

- 謝辞・付録のフォントサイズは 10 ポイントとし、フォントはゴシック体(和文の場合)もしくは Times-Bold 体(英文の場合)としている。
- 謝辞はその上に 1 行のみ空けている。
- 付録はその上下について 1 行空けている。
- 謝辞は結論の後に位置している。
- 付録は参考文献の前に位置している。

(9) 参考文献

- フォントサイズは 10 ポイントとなっている。
- 本文中での引用は、上付き片括弧付き文字としている(例, ○○¹⁾).
- 本文中に参照しているもののみを記載している。
- 記載した参考文献情報が J-STAGE にも掲載されるが、各文献について、著者、題目、論文集名、巻、号、ページ、年などの必要事項を間違いなく書いている
- 参考文献の発行時期は、原稿の見本と同様に、年まで表記し、月は表記しない(例)○2019. ×2019.1).

(10) 受付日、受理日

- 最後の参考文献の次の行に位置している(1 行空ける)。
- 受付日を(2019 年 9 月 20 日)としている。
- 受理日を(2020 年 2 月 1 日)としている。
- フォントサイズは 10 ポイントとし、右揃えとしている。

(11) その他

- 最終ページは、2 段組の高さを揃えるように(左右のバランスを)調整している。
- PDF ファイルにセキュリティ設定をしていない。
- PDF ファイルに全てのフォントを埋め込んでいる。
- 査読用原稿とは異なり、ページ番号は付していない。